

播磨国風土記編纂1300年に向けて「ふるさと加西」を学びましょう

加西市は、播磨国風土記に記される根日女伝説の舞台で、ゆかりの地も多く登場します。編纂1300年となる平成27年(2015年)に向けて、皆さまと共に播磨国風土記を学び、古代のふるさとを知ること、「ふるさと加西」に対する愛着や誇りを持ち育てていきます。

この節目を機会に、市の魅力を発信し、認知度の向上と交流人口の拡大を図るため、5月に「播磨国風土記1300年祭実行委員会」を立ち上げます。地域の人々の絆を築き「ふるさと加西」の活性化のため、さまざまな取り組みを行っていきます。今後「広報かさい」で、播磨国風土記に関する記事を連載していきます。

■根日女伝説

播磨国賀毛の里を治めていた国造許麻の娘の根日女が、後に天皇となる兄弟の命を救ったことから恋が芽生え、愛が育まれていきました。当時は、皇位継承を巡った争いがあり賀毛の里に逃げていました。



根日女が眠ると伝えられている玉丘古墳

都に帰った二人は帝につき、求婚しましたが、互いに譲り合う間に根日女は亡くなります。悲しんだ二人は、根日女のために賀毛の里に墓を築き手厚く葬りました。その墓は表面を玉石で覆い、今でも玉丘古墳として残っています。

中国の中央集権国家を手本に国づくりを進めた朝廷ですが、地誌の編纂もその一環として始まります。朝廷は、中央と地方の支配関係を明確にするために、地誌や正史を提出させ、各国の国力を把握しようとしていました。



建都1300年にあたる平成22年(2010年)に平城京跡に復元された大極殿。

■風土記とは？

- だれが？ 朝廷の命令で
- なぜ？ 地方の様子を把握するため
- どこで？ 播磨国で
- いつ？ 奈良時代に
- どうした？ 各国で作成が進められた
- なにか？ 地誌

■地誌＝風土記

現存する風土記は、播磨、常陸(茨城県)、出雲(島根県)、豊後(大分県)、肥前(長崎県)の5カ国で、奈良時代の原本ではなく、すべて写本です。「播磨国風土記」も平安時代後期(1100年代)に写されたもので、現在は天理大学附属天理図書館に所蔵され、国宝に指定されています。

- 国司に仕える役人が解(報告書)を作成し、朝廷へ提出しました。
- 縁起の良い字を用いて郡名や地名を記す
 - その土地の特産品や肥沃さ
 - 山・川・原・野などの地名の由来
 - 古老から伝承されている旧聞・異事

この「解」が後に「風土記」と呼ばれる

■地誌「風土記」や正史「日本書紀」を持つということは

風土記や日本書紀の編纂は、自国の歴史と国土の認識、つまり「国の成り立ちと現在の状況」の把握が必要でした。そのため風土記や日本書紀は、文化国として唐帝国(中国)を中心とした東アジア文化圏で、国際的地位を高める重要なものでした。



■賀茂郡

上鴨里・下鴨里・修布里・三重里・楢原里・起勢里・山田里・端鹿里・穂積里・雲潤里・河内里・川合里

※太字の全体、または一部が加西地域に該当すると言われています。

里ごとに土地の評価や里の由来、代表的な地名や文物の由来や伝承を記載。

■播磨国風土記の年代

風土記の編纂は713年に朝廷の命令によって始まりますが、成立年代は明らかになっていません。播磨国風土記は、郡の下に里がある「国郡里制」で記述されています。この行政単位が715年から717年頃に郷を用いる「国郡郷制」へ改編されました。よって「播磨国風土記」は新しい制度が導入される715年頃には、すでに書かれていたことが分かります。

■ねっぴ〜(ふるさと加西観光大使)

加西商工会議所青年部が、「根日女伝説」を題材にした「ねっぴ〜」を平成23年10月に加西市のご当地キャラとして誕生させました。3月に行われた県内キャラクター総選挙(25体)で、7位に入賞しました。



■日本百貨店協会「ご当地キャラ総選挙」ねっぴ〜がエントリーしています(<http://gotochi2013.jp/about>)。投票期間は4月21日(日)までです。

【問合先】 図書館(郷土資料係) ☎0106 FAX03133 shishi@city.kasai.lg.jp

■元気な地域の創り方「かさい元気化トークサロン」

加西市は、元気なまちにするにはどうすればいいのかを考える「かさい元気化トークサロン」を3月3日、アステシアかさいで開催しました。1部では、マーケティングコンサルタントの西川りゅうじんさんを講師に迎え、地域観光の活性化をテーマに講演していただきました。



根日女伝説など地域資源の積極的な活用を呼びかける西川さん(左から2人目)

■西川さんの地域観光の元気化キーワード

- あ=あそび心 携わる人が楽しみながら考える
- い=いやし 心と体が健康になるサービスや商品を提供する
- う=うまい 飲食のみならず常に質を向上させる
- え=えらばれる オンリーワンの魅力を発信する
- お=おもてなし 相手の気持ちになって考え行動する

2部では、(写真左から)司会の小川雅規さんのもと、西川さんと市内在住の酒井圭子さん、上原尚広さん、飯田香耶子さん、宮本博文さんの4人が、加西市の魅力・価値を高めるにはどうすればいいのかを話しました。

「加西市にはたくさんの観光スポットがある。親戚や友人が遊びに来た時に神戸や姫路などの市外を案内するのではなく、加西市を案内することが大切。そのためには、市民が加西市のことをもっと知らないといけない」などと熱く語り合いました。